

社会福祉法人はぐくみ会 2021 年度事業報告

I はじめに

2021 年度におきましては、やはり新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた 1 年となりました。新型コロナウイルス感染症については、流行も長期化し、また、今後についても当事業所のような障害福祉サービス事業所においては、感染予防の取り組みを継続していく必要があると考えております。

そして、グループホームの計画については、コロナ禍の状況もあり工期が遅れるなどの影響もありました。建物の工事につきましては、5 月中旬に完了し 6 月から事業スタートができる状況にまでたどり着きました。当法人にとっては、初めての事業となりますので、これまでの準備につきましても不十分といったこともあろうかとは思いますが、事業開始後も、落ち着くまでは多少時間がかかると思っています。運営面につきましても、初年度は厳しい運営になると予測しております。そのような状況ではありますが、1 日も早く入所する人たちにとって安心できる生活が送れるよう、支援の充実に努力してまいります。

グループホーム計画が進んだことで、当法人の大きな課題としていた将来計画については、2021 年度は具体化が進められたと感じております。一方で、継続して取り組んできた人材育成については、事業拡大をすることによりより一層重要な課題となりました。人材育成につきましても、継続した課題として今後も取り組んでまいります。

2022 年度も課題が山積しております。しっかりと振り返り、また、2022 年度に繋げてまいりたいと思っております。どうか、皆様、忌憚のないご意見をいただけますよう宜しくお願いいたします。

～当法人の理念～

障害者・家族・関係者の願いに基づき、障害の種別や程度にかかわらず、障害者が社会の一員としていきいきと生きるための労働と生活の場を保障し、併せて地域社会に根ざした社会的自立と福祉の向上を図る。

II 障害福祉サービス事業（生活介護・就労継続支援 B 型）

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
<p>1 仲間、一人ひとりの課題、ニーズに合わせた取組みを考える（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>（1）仲間一人ひとりについて、職員は常に仲間への理解を深め、思いを汲み取りながら、毎日の取組みや活動を考えていく。また、仲間一人ひとりが日々、満足したり、充実しているかを感じ取っていく。</p> <p>理解を深めていくために、職員全体で情報共有していく。（夕方の情報共有会議と情報共有引継ぎファイルの定着）新型コロナウイルス感染の影響から 2020 年度に引き続き、活動場所は 2 か所に分かれると思われるため、仲間の様子をしっかりと把握していく。そして、取組みと活動については、コロナ禍のなかで、どのようなかたちで進めていき、仲間の達成感や満足感、また、充実した毎日が過ごせるかを考えていく必要がある。</p> <p>記録の仕方については、記録する職員によって温度差が出来ないように記録の要点をしばり記録していく。あと、日々の個人日誌は担当職員が確認を</p>	<p>（1～4）</p> <p>仲間への理解については、知ろうとしないとわからないので、関わる中で知っていき、それを職員みんなで共有していくことで、より深めていく必要がある。</p> <p>この間においては、新しい職員が増える中、まずは仲間のことを職員から教えてもらい仲間にかかわりながら仲間への理解を深めていくことが求められる。</p> <p>また、仲間一人ひとりの願いは何か、それを叶えるためにどうしているかと、担当職員を中心に支援計画を作成し、みんなで同じ方向に向かって支援出来るよう、さらに努力していく必要がある。</p> <p>情報共有については、毎日することが定着し、職員で仲間のことを共有できている。パート職員にも共有出来ている。ただ、朝の打合せにて行なうことが通常となってしまっている。その</p>	<p>（1～4）</p> <p>毎日の実践の振り返りとして、なかなか夕方の時間にじっくりと職員同士で話しをしてとまでは難しかったが、朝の打合せにて仲間の様子を伝え合うことで仲間への理解を深めていく機会が増えたことは良かったと感じる。また、パート職員にも仲間の様子を伝える引継ぎファイルの継続も出来た。</p> <p>しかし、もっと時間が欲しいと思うこともあった。その日のことをその日のうちに話して明日に繋げるということが大事だが、出来ないことが多い。</p> <p>仲間について、より深く論議して職員で共通認識の下、支援をしていけるようにするには、論議出来る時間の確保、そして、積極的に職員同士で話し合えることなど、引き続き努力が必要だと思</p>

		<p>し、次の日の取組みに繋げていけるようにしていく。</p> <p>(2) 個別支援計画、また個別支援計画見直しの内容についてしっかりと論議する。(具体的に実践してみてどうだったかを振り返り、次に繋げていくという論議がより一層出来るように取組んでいく)</p> <p>職員全体で仲間の支援について共通認識し、支援のばらつきがないように取組んでいく。(常に支援内容が意識出来るような仕組みを作る) また、支援の内容が仲間に合ったものになっているかを意識し、取組みをすすめていくために、定期的に支援計画を確認するための会議をおこなう。定期的な確認の会議以外でも、気になること、また、懇談後の報告を職員で話が出来ると時間の確保にも努める。あと、支援内容に変更があった場合は、職員全体で確認し、支援のばらつきにならないようにする。</p> <p>(3) 職員は、常に仲間や家族の願いを汲み取り、今必要な支援、そして、将来を見据えて必要な支援は何かと積</p>	<p>日のこととして当日の夕方にした方が抜けなく出来るので、夕方の時間の作り方が課題である。また、パート職員からも発信出来る手段が必要で、意識して聞くことも続けながら、方法を考えていく必要がある。</p> <p>記録については、まだ日記のようになってしまうなど、温度差がある。個別支援計画に沿って、要点を絞って記録するために、一人ひとりの職員が一人ひとりの仲間について、どこにポイントをとって書くのかをおさえておかないといけない。個別支援計画の内容がパッと見てわかるような工夫が必要。日誌の記録の際に見られるようにすることからも意識に繋がるので、今後、その方法を考えて実行していく。</p> <p>また、担当職員が毎日、自分の担当の仲間の方の日誌を確認し、支援計画に沿って記録できているのかを確認する。</p> <p>支援のバラつきについてはまだまだあるので、職員間で伝え合い共有出来るようなチーム作りをしていく必要がある。上記にもあるが、支援計画のポ</p>	<p>う。また、パート職員から、仲間のことを知りたいと聞いてもらえることもあり、色々、伝える機会が出来たことは良かったが、もっと積極的に発信してもらえよう環境作りも引き続き考えていきたいと思う。</p> <p>これまで、仲間一人ひとりの個別支援計画の内容を把握し、そのことに意識をしながら支援をしていくとしてきたが、その部分が薄れがちになっている場面もあったと思う。このことは、仲間への理解を深めるといふところに通じることなので、職員同士で支援の方向性を確認し合いながら取組んでいかないといけない。</p> <p>中間総括にて、支援計画の内容を意識できるように工夫をしていくとしていたが、出来ていないことは反省点である。出来るようにするにはどうすればいいかを職員みんなで考えて取組んでいけるようにと思う。</p> <p>毎日の記録に関しても、支援計</p>
--	--	--	--	--

<p>2 就労支援事業の収支について、収入増</p>	<p>年 間</p>	<p>極的に論議をしていく。そのために、職員は、今まで以上に仲間や家族の方との関係を深め、一瞬の様子や話から思いを汲み取れるよう努力していく。また、当法人が取組んでいる、将来計画についても仲間や家族の方の願いが実現できるように職員は学習会や研修の機会を設け、積極的に取組む。</p> <p>(4) 実践において、発達保障の視点を大切にし、仲間が働くことや生活の幅をひろげる、豊かにするといったことを職員で論議し深めていく。(8月に所内研修をおこなう) 所内研修については、より一層このテーマについて研修が出来るようにやり方の工夫もしていく。</p> <p>(1) 毎月の取組みとして、グループ分けをし、仲間一人ひとりに合わせた内容で、一ヶ月の頑張りを伝え合い、作業への期待や意欲に繋がるよう、お</p>	<p>イントをパッと見てわかるように方法を考え、実践していき、一人ひとりの仲間にとって大切にすべきポイント、かかわりを共有出来るようにする必要がある。</p> <p>発達保障の研修を所内で続けていく中で、理解を深めていくことが出来ているが、継続していかないと、支援の中で忘れがちになってしまうので、継続し、実践に活かしていく。研修内容についても、基本と実践に活かせる内容であったり、一人ひとりの仲間について、発達年齢と課題について、職員で考え勉強していけるような研修も今後は考えていきたい。</p> <p>(1～4)</p> <p>作業への意欲や期待に繋がるようなかかわりや声かけを意識しながら取組み、お給料の話の際にも丁寧に仲間</p>	<p>画に沿ってどうであったか、そして、仲間が今日一日、満足できたかどうか、ポイントをおさえて記録できるように引き続き努力が必要だと思われる。</p> <p>また、定期的に行っている個別の懇談では、家族の方の思いを聞く機会がもてたと思うが、より一層、色んなことを話してもらえるようにしっかりと関係を作っていけるようにと思う。</p> <p>実践において、発達保障の視点を大切にとこれまで、取組んでいる。職員で学習する機会や仲間を思い浮かべながら論議する機会がもてたことは良かった。続けて研修をしていきたいという思いも持っているので、今度は、どのように職員で研修を深めるか考えていきたいと思う。</p> <p>(1～4)</p> <p>今年度も、2ヶ月に一度、収支を確認し工賃の検討を行ってきた。新型コロナウイルス感染の状</p>
----------------------------	------------	---	---	--

<p>を目指す (継続)</p>		<p>給料の話しをしていく。また、より一層、仲間にとって伝わりやすい方法も模索しながら取組んでいき、その都度、振り返りもおこなっていく。</p> <p>(2) 新型コロナウイルスの影響も踏まえ、職員は作業ごとに年間計画をたて、やりきる意識を持ち取組んでいく。また、年間の収入見込みと、毎月の収支を確認し、意識しながら取組む。2ヶ月ごとに計画の進み具合を確認し、状況に応じて修正と対応策を検討する。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染状況によっては収入に大きく影響が出るため、今、取組んでいる作業に加え収入増につながる工夫をする。また、新たに収入増につながるものはないかと、情報収集もおこない積極的に意見を出し合い検討していく。</p> <p>(4) 収支だけにとらわれるのではなく、職員は仲間が働くということや、仲間のお給料についての論議も深めていく。(『仲間一人ひとりの働く』を考える。会議日程 11 月)</p>	<p>一人ひとりに対して頑張りを認め合う時間をもてたことはよかったが、それぞれのグループでどのような話をしたかという点については、職員間で共有が出来ていないため、共有する時間を設け、仲間一人ひとりにわかりやすい伝え方を引き続き検討していく。</p> <p>2ヶ月ごとに収支の状況を確認し、工賃額の検討をおこなってきた。収入増に繋がるようにそれぞれの作業について対応策を職員で検討しながら進めてきたが、新型コロナウイルス感染前の工賃に戻すことは出来ておらず、今後についても、収支の状況を見ながら職員間で積極的な論議をおこなっていく必要がある。</p> <p>今年度もどのようにして収入増を目指すかというところが課題となっている。仲間のペースを崩さず負荷がかからないように何か収入に繋がるものがないかと情報も集めながら取組みを進めてこれたかと思う。作業の紹介などがあった際には、内容を職員で前向きに検討し、仲間に伝え、仲間と共に取組んでこれたことは良かった。引き続</p>	<p>況を見極めながら工賃の見直しをすることは、難しい部分もあった。</p> <p>仲間が期待し楽しみにしているお給料を少しでも元に戻していきたいという思いで取組み内容を検討し、仲間と一緒に取組んでこれたことは良かった。</p> <p>収入につながることはないかと情報収集も行ったりしながら取組む中で、リサイクル回収先の方から新たな作業の依頼もあり、仲間に提案することが出来た。仲間のペースや負担にならないように、そして、意欲につながるようにと職員間でも検討出来たことは良かったと感じる。</p> <p>今年度も月の工賃が下がったままだったが、みんなで協力して取組んでこれたことにより、年度末手当を支給することが出来た。コロナ禍が続く中、工賃を戻せるように議論をしていく必要がある。</p> <p>一人ひとりの仲間にとっての</p>
----------------------	--	---	--	--

<p>3 職員の資質の向上 (継続)</p>	<p>年 間</p>	<p>(1) 職員の資質向上のため、年間計画をたて、研修に参加していく。また、支援に必要となってくる様々な研修についても、その都度、積極的に参加していく。職員会議では研修報告をおこない、日々の実践につなげていけるよう論議を深めていく。(研修報告より、テーマを取り上げ、所内研修をおこなう) また、研修報告と資料についてはファイリングし、いつでも閲覧できるようにしておく。</p> <p>(2) 職員全体が仲間の話しを積極的にし、日々の実践について振り返りや悩み、疑問を出し合い論議をしていく。(悩みや相談ごとなどが話しやすい環境を作っていくことが必要) また、実践のまとめとしてレポートを書き、それをもとに職員で論議する機会を設</p>	<p>き、仲間と職員が一緒になって積極的に取り組んでいきたいと思う。</p> <p>毎年、このテーマについて職員で論議をおこなってきた。仲間一人ひとりについての働くについて考えていこうということで、11月に所内研修を予定している。</p> <p>(1～4)</p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染の影響でリモートでの研修ということもあったが、計画に沿って研修に参加できているかと思う。</p> <p>研修報告を受け、それについて職員間で論議する点については、深めることが出来ていない。予定を立てて計画的に時間を確保出来ていないことに原因があるので、今後、意識して時間確保をしていく必要がある。</p> <p>また、今年度前半は、実践レポートを書き、自分たちの実践について論議する機会が持てたことは良かった。職員で話し合い実践について共有できたと思うので、しっかりと日々に活かしていきたいと思う。</p> <p>ここ数年、報連相やチームワーク力</p>	<p>働くことについて、考え合い話が出来たことはよかったが、全員はできていないことや、話し合った後に職員がどう意識できているかについても話し合い、より深めていく必要がある。</p> <p>(1～4)</p> <p>新型コロナウイルス感染の影響で、リモートでの研修は多かったが、計画に沿って参加することはできた。</p> <p>研修報告を会議の中でできておらず、深めることもできていないことが反省点である。研修内容からの所内研修を計画し、職員全員で学びを深めていけるようにしていく。</p> <p>実践レポートを書くことで、仲間の方のことをより深く論議できたことは良かった。「なんで？」と悩んでいる仲間のことを書くことで、一人で悩まずみんなで悩み深め、解決に向かえるように継続していくことが大切である。</p>
----------------------------	------------	--	--	--

		<p>ける。</p> <p>(3) 仲間や家族の方、また地域の方からの苦情や要望を第三者委員へ報告し(年2回)、助言等をいただき職員の資質の向上とより良い実践に繋げていく。</p> <p>(4) 報告、連絡、相談を定着させる。(定着させるための工夫をおこなう。やり取りはメモで)</p> <p>また、実践を充実させていくためにも、職員のチームワーク力を高めていく。そのためには、職員一人ひとりが、周りを見て状況判断が出来る力を身につけることと、職員の連携強化をめざす。</p> <p>あと、職員集団として、また職員個人としてどれだけの力をつけることが出来たかを職員で振り返ることもしていく。</p>	<p>を高めるといったことを意識し、職員集団の力量アップを目指している。数年前に比べると報連相も定着してきたが、まだまだ抜け落ちることもある。また、周りを見て状況判断する力についてもまだまだ不十分。新たな職員も増えたため、今一度、職員一人ひとり意識改革と職員集団として力をつけていけるように今年度後半、取組んでいく。</p> <p>今年度初めて、第三者委員会を開催した。苦情、事故などの報告を第三者委員の方へ報告した。報告内容について、助言もいただくことが出来た。そのことを職員全体で論議し共有していくことで毎日の実践がより良いものとなるように取組んでいくことが大切である。</p>	<p>報連相やチームワーク力を高めることを職員一人ひとりが意識できている。しかし、話の行き違いや、引き継ぎの抜けなどもあり、意識と工夫が必要である。また、状況判断については、忙しい中で正しい判断をすることや、自分以外の職員の状態を予測してフォローすることや、新しい職員が増える中での目配り・気配りなど、職員全員が意識して取り組んでいくことが新たな課題である。</p> <p>第三者委員会の内容や助言を職員間で論議し、できることから取り組んできた。話し合いをしたり、見える化を行ったり、朝礼で共有したりすることで、職員間で声をかけ合うことが増えたり、抜けることが減ったり、見て立ち止まって確認するということが増えていると感じられる。一方で、項目を足した方がいい部分もある。</p>
--	--	---	---	---

Ⅲ 公益事業
事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 主たる介護者のレスパイトや緊急時の対応のための支援	年間	<p>(1) 主たる介護者のレスパイトや作業所での支援時間帯以外に起こった本人や家族の方の緊急時の対応をすることで障害のある人やその家族の安心した生活が営めるよう日中一時支援事業を行う。</p> <p>(2) 開所曜日、開所時間については、月火水金の 15:30~18:00（土日については、要相談）とする。</p> <p>緊急時の対応についての検討。</p> <p>(3) 利用時の支援の内容については、仲間が満足できるように考えていく。また、利用についての感想やニーズは今後も聞き取っていき、より良い事業にしていく。</p>	<p>利用については少なかったが、希望があった際には対応が出来たと思う。活動内容については、本人に合わせた活動が出来るようにとしているが、限られた空間での過ごしに難しさも感じる為、工夫が必要とされる。あと、緊急時の対応についても、体制を整える必要があると感じる。</p> <p>また、開所日や開所時間については、以前、ニーズ調査をおこなっている。中には、開所日への要望等もある。今後、ニーズが高まってきた際には、検討も必要になってくると思われる。</p>	<p>年間を通して利用回数は少なかったが、利用の希望があった際には対応が出来た。また、緊急対応として開所日以外の利用もあった。</p> <p>利用時の仲間の様子については、ゆったりのんびりの時間が多く、心地よく過ごされる様子が多く見られた仲間と限られた範囲での過ごしに満足いかない様子が見られた仲間もおられたため、引き続き過ごしについては検討していきたいと感じた。</p> <p>利用についてのニーズについては、具体的な要望等はなかったが、引き続きニーズの把握はしていく。</p>
2 余暇に対する支援	年4回 ~6回	<p>(1) 障害のある方の休日の過ごしを充実させることを目的とし、「はぐくみ良か余暇支援活動」を年4回~6回の実施を予定するが、新型コロナウイルス感</p>	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動が制限されている状況が続いた。ボランティアさんの参加も見合わせている。</p>	<p>昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動が制限される年となった。</p> <p>ボランティアさんとの活動も</p>

		<p>染の影響もあるため、ボランティアさんの参加や活動内容等は状況をみながら検討、そして工夫をし、取組んでいく。</p> <p>(2) 参加される方が、四季を感じたり、色々な体験ができたり、自分たちが住んでいる滋賀の魅力が発見できる機会、また、ボランティアさんを通じて、人とのふれ合いを感じられるような活動とする。</p> <p>活動資金作りについては、滋賀県共同募金会のつかいみちを選べる募金にエントリーし、次年度の活動資金の確保に努める。</p>	<p>そのような中でも、仲間の方たちの休日が豊かになるようにと、活動内容に工夫をしながら活動出来たことは良かった。また、活動は一緒に出来なけれど、ボランティアさんへ仲間が信楽焼の置物を使って作った飾りに手紙を添えて贈るなど、ボランティアさんとの繋がりを大切に活動出来た。</p> <p>毎年、活動資金についても課題とされているが、次年度の活動資金についても滋賀県共同募金会のつかいみちを選べる募金活動に参加できる予定なので、多くの方にこの活動の大切さを伝えていき、協力していただけるよう取組んでいく。</p>	<p>見合わせる事となり、仲間の皆さんは、残念そうであったが、ボランティアさんとまた活動できることを楽しみにしながら、贈り物を作ったりして楽しく過ごされたと思う。</p> <p>来年度についても、新型コロナウイルスの影響を受ける可能性はあると思われるため、どのような活動を行っていくか検討が必要。</p> <p>来年度の活動資金作りとして、滋賀県共同募金会のつかいみちを選べる募金活動をおこない、この活動の大切さを伝える機会がもてたことは良かった。</p>
--	--	---	--	--

IV 将来計画に関連する事業

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 障害の重い人たちの進路先の保障や住まいの場の確保を目的とした事業についての検討(継続)	年間	<p>(1) 現在、地域の養護学校に通われている児童・生徒の進路先の保障や主たる介護者の高齢化に伴う本人の生活の場の確保といった課題を解決するために、法人の将来計画として「生活介護事業所の創設」や「ホームの創設」といった新たな事業展開を検討する。</p> <p>(2) 新たな事業展開を検討するにあたっては、外部の方にも参画いただいている将来計画実現委員会と連携しながら進める。</p> <p>(3) 地域課題として関係機関と課題について共有することが大事であり、区市との協議や圏域や市の自立支援協議会に積極的に参加し、情報の共有に努める。</p>	<p>「はじめに」でも触れましたが、グループホームの国庫補助の内示を受けて、いろいろと動きを作って取り組んでいます。来年度事業開始に向け、年度後半も計画的に進めてまいります。</p> <p>また、将来計画実現委員会につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように部会の開催ができませんでしたが、年度前半に生活介護検討部会を1回、ホーム部会を2回ほど開催することができました。そのような中で、事務局会議にてグループホームの創設といった大きな事業の目途が立ったこともあるし、そもそも計画が5か年計画であったこともあり、今後の将来計画の進め方について一度整理が必要ではないかといったご意見があり、そのことを受けて今年度後半に将来計画の進め方について検討することとなりました。</p> <p>また、グループホームの事業計画を検討するにあたり、必要な資金や今後</p>	<p>グループホーム計画につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、工期が遅れるなどの影響もありましたが、5月中旬に工事完了の目途が立ち、6月からスタートできることとなりました。そのことにより、国区市といった補助金の繰越手続きもお願いしておりましたが、3月の議会で区市とも承認いただいております。</p> <p>また、事業開始のための準備も進めてまいりましたが、不慣れな点も多く十分とは言えないと思いますが、何とか6月の事業開始に間に合わせることができました。運営シュミレーションを検討するにあたり、初年度は入所者8名でのスタートになるといったこともあり、厳しい運営状況になることが予測されています。くわえて、</p>
2 国庫補助申請に向けての取り組み(新規)	年間	<p>(1) 国庫補助申請をするために、行政や関係機関と協働して取り組みを進める。</p>	<p>また、グループホームの事業計画を検討するにあたり、必要な資金や今後</p>	<p>また、グループホームの事業計画を検討するにあたり、必要な資金や今後</p>
3 資金作りの	年間	<p>(1) 新たな事業実施に必要な自</p>	<p>また、グループホームの事業計画を検討するにあたり、必要な資金や今後</p>	<p>また、グループホームの事業計画を検討するにあたり、必要な資金や今後</p>

<p>取り組み（継続）</p> <p>4 グループホーム開設のための人材育成の取り組み（継続）</p>	<p>年 回</p>	<p>己資金について、後援会とも連携しながら積極的に取り組む。</p> <p>(1) 将来グループホームを開設する予定であることを踏まえ、人材育成を目的とした利用者宿泊体験事業を実施する。<u>(2021年度については、新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、一旦休止とする。)</u></p>	<p>の運営シュミレーションを検討する中で、今回は借入をせずに資金計画が立てられたのはよかったものの今後の運営には資金不足の課題もあるといったことが見えてきました。このことについては、今年度後半にも理事会レベルでの対応の検討が必要と考えております。</p> <p>あと、グループホームの事業開始に向けた人材確保についても、運営シュミレーションを精査する中で大いに検討していく必要があります。他法人の状況でも、人材確保は厳しいと言われています。そのような中で、今年度コロナ対策として県が実施されたジョブトレーニング事業の委託を受けて、10月から非常勤職員 2 名を採用しています。</p>	<p>人材確保も大変苦勞しており、初年度は間に合ったものの今後についての補充については継続した取り組みが必要になっております。そのことと合わせて、2年目以降の運営シュミレーションを精査しながら、運営を安定させるための検討が必要になってまいります。</p> <p>それから、将来計画に関する取り組みとして、将来計画実現委員会を継続して開催してまいりましたが、中間報告の際にも報告させていただいていたように事務局会議にて、今後について検討した結果、この委員会については、2021年度末で終了し、新たな将来計画の策定のための取り組みを2022年度から開始するということで全体会議にてご承認いただいております。</p>
---	------------	---	---	---

V 地域との連携や地域貢献

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 地域の方々 に応援して いただくた めの取り組 み(継続)	年間	<p>(1) アルミ缶・段ボール回収に対 する協力の周知</p> <p>(2) 事業所の活動に対するボラ ンティアの受け入れ</p> <p>(3) 後援会とも連携して「はぐく み市」を開催(2021年度は中止)</p> <p>(4) 後援会とも連携して「はぐく み映画会」を開催(2021年度は中止)</p> <p>(5) きょうされんの署名活動な どを通じて作業所や障害のある人た ちのことを知っていただく。</p>	<p>コロナ禍の状況が続く中、依然として ボランティアの受け入れは中止させて いただいています。</p> <p>また、後援会との共催行事「はぐく みまつり」「はぐくみ市」「はぐくみ映 画会」についても、今年度も中止とな っております。ただ、ワクチン接種が 進む中、感染状況や重症者数の状況等、 今後の動向が改善されれば社会的な変 化も出てくるとは思いますので、今後 の状況を注視しながら来年度に向けて 検討が必要かと考えております。</p>	<p>後援会との共催行事「はぐく みまつり」「はぐくみ市」「はぐ くみ映画会」についても、今年 度も中止となりました。新型コ ロナウイルス感染症の影響は、 今後も続くと予測はされます が、2022年度においてどのよ うな形で継続していけるのか を後援会とも連携して検討し ていく必要があります。</p> <p>そのような中ではあります が、きょうされんの署名活動 は、行うことができました。障 害のある人たちの現状や、作業 所の現状を広く地域の方々に 知っていただく機会となりま した。</p>
2 地域貢献の ための取り 組み(継続)	年間	<p>(1) 地域の方々との交流を目的 に後援会とも連携して「はぐくみま つり」を開催(2021年度は中止)</p>	<p>また、昨年度から行っている所前販 売も継続して行っており、工夫できる 範囲で地域の方々との関りも持てては います。</p>	

【2021 年度事業実績】

○ 年間開所日数及び 1 日平均利用者数

	開所日数	平均利用者数
生活介護	258 日	11.4 人
就労継続支援 B 型	258 日	3.6 人
合 計		15.0 人

・上記の表には、在宅支援を出席とみなした数。

○ 職員体制（2022 年 3 月末時点）

生活介護		就労継続支援 B 型	
管理者	1 名（内兼務 1 名）	管理者	1 名（内兼務 1 名）
サービス管理責任者	1 名（内兼務 1 名）	サービス管理責任者	1 名（内兼務 1 名）
生活支援員	11 名（内兼務 2 名）	職業指導員	1 名
看護職員	2 名	生活支援員	1 名（内兼務 1 名）
調理員	1 名（内兼務 1 名）	調理員	1 名（内兼務 1 名）
事務員	2 名（内兼務 2 名）	事務員	2 名（内兼務 2 名）

○ 入退所者数

	定員	入所者数	退所者数	現員（3 月末）	昨年比
生活介護	10	0	0	13	±0
就労継続支援 B 型	10	0	0	5	±0
合 計	20	0	0	18	±0

○ 事故報告について

活動中の大怪我（病院搬送）	2件	+2	職員の肘が仲間の前歯に当たり、前歯がぐらつき、家族さんが病院へ…神経は大丈夫で処置はなかった、職員が側溝でつまずき骨折
活動中の怪我（軽微なもの）	17件	+4	転倒の際の打撲、擦り傷、発作時のやけど(赤み)→大怪我につながりかねないもの、引っ掻き傷、物投げによる接触、自宅前の溝に片足転落
活動中の車両事故（物損）	2件	±0	リーフ駐車場の外灯ポールに接触、狭い道路での転回時の接触
活動中の車両事故（人身）	0件	±0	
送迎中の車両事故（物損）	3件	+3	団地内の看板に接触、送迎時の回収先付近の縁石に接触、駐車場フェンスに接触、
送迎中の車両事故（人身）	0件	±0	
火事・災害等による怪我	0件	±0	
食中毒の発生	0件	±0	
その他①	1件	-8件	与薬忘れ・・・遅れて与薬(あってはならないこと)
その他②	1件		備品破損・・・介助や声かけも一因となりトイレタンクを奥に落としてしまい破損
合計	26件	+1	

【今後に向けて】・活動中の仲間の見守り、職員間の連携の強化。

- ・車両事故については、運転者の意識強化。添乗者と2人の目で確認することの徹底。
- ・運行前後点検の継続。
- ・個人情報取り扱いの意識強化。
- ・業務内容についての報告と確認の徹底。
- ・本人さん理解を深め、行動の予測、発作時のシュミレーションなど、事故を振り返り職員全員で考え合う。

○ 苦情解決について

（苦情受付件数と内容）

身体介助（衣服）に関するもの	2件	+2	2日連続排便拭き取り不十分、マスク着用をお願いしていたのにしていなかった
身体の異常（怪我）に関するもの	0件	±0	
介助に関するもの	0件	-3	

施設環境に関するもの	0件	±0	
活動内容に関するもの	1件	-3	リサイクル回収先の忘れ
利用者の様子に関するもの	2件	+1	発作の記録が2枚あり困った、車内で他の利用者さんの話を職員同士がしていて、言われている利用者さんも聞いていた本人さんも不快だというもの
利用者の持ち物に関するもの	4件	+2	忘れ物、連絡帳が切られていると家族さんから連絡
利用者の処遇に関するもの	1件	-1	送迎有無の聞き取り違いによって、必要だったのに行けなかった
運転に関するもの	0件	±0	
家族の方に関するもの	1件	-1	短期入所利用時に自宅へ迎えに行った
地域の方からに関するもの	0件	±0	
合 計	11件	-3	

【今後に向けて】・仲間の見守りの強化。

- ・担当職員の確認意識の強化。
- ・業務内容について確認の徹底。
- ・職員の状況判断の強化。
- ・職員の連携強化。

○ 虐待防止対応について

(虐待受付件数と対応)

	件数		内、虐待防止センター等への通報件数
所内における身体的虐待	0件	±0	0件
所内におけるネグレクト	0件	±0	0件
所内における心理的虐待	2件	+2	0件
所内における性的虐待	0件	±0	0件
所内における経済的虐待	0件	±0	0件
合 計	0件	±0	0件

【今後に向けて】・虐待防止、人権への意識を常に持つ取組みをおこなう。

- ・年2回、所内研修をおこない、虐待チェックリストなど活用して日々を振り返り虐待防止への意識を強化。
- ・実際にあったことを振り返り、職員間での話し合いを深める…日々の中で虐待になりかねないことを出し合い、意識を高め合う。